

令和5年度 特色ある学校づくり推進事業報告書  
『地域との連携 Project MASANORI を通して』

あま市立正則小学校

## 1 目的

変化の激しい現代社会をしなやかに生き抜く力を児童に身に付けさせることは、今日の教育の重要な課題であると考えます。状況に合わせた目標をもち、前向きに考え行動するには、豊かな心の醸成が必要であると考えています。

本校は、校区に学校名の由来となった「福島正則公」の菩提寺である菊泉院があり、日頃から地域と深いつながりをもっています。保護者には卒業生も多く、地域の方に温かく見守られ、協力していただきながら学校教育を進めており、地域の力は本校になくしてはならないものになっています。

学校内外における自然体験や社会的活動を地域の方々を行うことを通して、地域の一員としての自覚をもたせ、地域の力を生かすことで児童の自己肯定感を高め、児童をより健やかに育てていきたいと考えます。

## 2 内容

### (1) 地域との連携

#### ア Project MASANORI

「福島正則公」を知り、母校や地域を誇りに思う気持ちをもってこの学校を卒業してもらいたいと始めたこの活動も7年目となり、児童の中に「福島正則公」が浸透してきました。5年生は、堀川文化を支える会の方を講師としてお招きし、「福島正則公が語る－堀川と名古屋のものづくり－」の紙芝居を通して学びを深めました。また、昨年度から始まりました「福島正則公」の終焉の地である小布施町立栗ガ丘小学校とZoomによる交流学习を行いました。交流学习では、正則小で行っている学習の紹介とあま市の特徴を紹介しました。栗ガ丘小学校からは、山地のくらしや特産物、観光名所などを紹介していただきました。3年生は、正則公の生誕に関する建造物（菊泉院、石碑）などを見学した後、菊泉院前住職による講話や座禅体験、堀川にたたずむ福島正則公の銅像の見学を行い、学びを深めました。6年生の『ふく王くんまんじゅう作り』では、講師に芳春軒店主を迎え、ふく王くんの顔のおまんじゅうを作りました。おまんじゅうは、授業公開時に、家族に感謝の気持ちを込めてプレゼントしました。

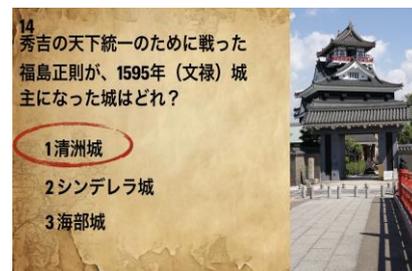
今年度は、4年生の取組の見直しを行った中で、「福島正則公」について児童に楽しく学んでももらいたいと考え、おはなし会ボランティアの方々を中心となって学習クイズを作成していただきました。いただいた資料をもとに、ITクラブの児童が、皆に提案できるようキーノートのアプリを使って仕上げました。



【3年 菊泉院訪問】



【6年ふく王まんじゅう作り】



【4年 正則クイズ】

#### イ 農業体験学習

継続事業として毎年、学校近くの畑でサツマイモの植え付けと収穫を地域の農業委員さんのご指導で体験させていただいています。昨年度から、1～4年生での実施に

変更しました。土に触れる経験が少なくなった今日、サツマイモの苗植えや収穫は、とてもよい体験になっています。収穫したサツマイモを絵手紙で描き、農業委員さんに感謝の気持ちを届けました。さらに3年生は、サツマイモ以外に郷土の農作物として有名な越津ネギの植え付けと収穫を、農家の方を講師に招いて体験させていただきました。

#### ウ 安全マップ作り

今年度6月に引き取り訓練を行い、下校時には、親子で通学路を歩いて危険箇所のチェックをしました。通学団会では、記入したマップを持ち寄り、危険箇所を確認し、児童へ注意を促しています。それらをまとめ、校区の安全マップを作成、配布することで、安全な登下校について意識の向上を図っています。

### (2) 豊かな心の醸成と健康づくり

#### ア 合唱指導

歌声の響く学校は、児童の心を豊かにすると考え、朝や帰りの会で歌を歌うことや朝礼の後全校合唱の練習をするなど、歌う機会を確保してきました。講師の合唱指導により発声に自信をもち、多くの児童が合唱のすばらしさを感じ取り、12月には「合唱発表会」を行うことができました。また、2・3月には「卒業式」に向けた合唱指導を行いました。

#### イ なわとび教室

昨年度に引き続き、「体幹を鍛え持久力を高める」ことや「根気よく取り組む心を育てる」ことを目標として、「なわとび教室」を行いました。講師に技のこつを教えてもらい練習に励む姿やダブルダッチに楽しそうにチャレンジする姿が見られ、縄跳び週間へのモチベーションを高めることにつながりました。

### (3) 指導力向上

#### ア 外国語の現職教育

令和4年度から「相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする児童の育成ー「伝えたい」気持ちを育む言語活動を通してー」と題して、外国語の授業研究を推進しています。2年目の今年度は、講師に岐阜聖徳学園大学の加藤拓由先生を招き、校内現職教育を行いました。研究授業の後、付箋紙を用いたワークショップ型の研修を行うことで、活発に意見交換ができ、教員の主体的な交流や若手教師の研修の機会となっています。

#### イ 児童理解と心を育てる教育の充実

令和を生きる子どもの理解と対応を学び、保護者とともに児童の支援を行うことができるよう研修をしています。今年度は、講師に臨床心理士の西川絹恵先生を招き、「今どきの子どもの理解と対応-子どもの心を育てるために-」という演題で講義を受けました。

## 3 評価と課題

コロナ禍を経て、以前の学校生活が戻りつつあります。「Project MASANORI」の内容や、各学年の「生活科」や「総合的な学習」のカリキュラムを見直し、児童が正則小学校で過ごす6年間で実施できる、学校全体での取組や持続可能な取組を検討してきました。今年度は、4年生(中学年)に向け、地域の方のお力をお借りして学習クイズの作成を行うことができました。地域に存在し、地域に支えられている本校にとって、逆に地域に何かできないか、そんな思いに駆られて、取り組んできたProject MASANORIですが、年数を重ねることで「福島正則公に親しむ」だけでなく、継続して受け継ぐ活動になりつつあります。